会　議　議　事　録

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">平成 26 年度
第１回　教育課程編成委員会</td><td>専門学校 東京工科自動車大学校
専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校
東京工科専門学校品川校</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="4">平成　　２６年　６月　４日（金）　　１５：００　～　１７：３０</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="4">東京テクニカルカレッジ・テラホール</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参　加　者</td><td>委員</td><td>17 人</td><td colspan="2">（参加者）
佐藤 康夫、小林　完、竹尾和也
佐々木 洋文、油井 文江、齋藤 昭男、沼田　勇、
大石 安孝、小野 宗憲、谷川　潮、田村　智、宮谷 真樹、
甲斐 俊和、遠藤 新一
山口 泰之、武井 和則、澁谷　健
（欠席者）
なし</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>２人</td><td colspan="2">開田　実、金澤　晃男</td></tr>
<tr><td>会　議　碌</td><td colspan="4">●開会挨拶(佐藤)
・本委員会発足の経緯、位置づけについて
・学園組織改編（東京工科グループ、グループ企画部の設置）について
●委員紹介(開田)
●議事
報告事項
①　職業実践専門課程認定報告(竹尾)
3 月 31 日に東京工科グループ三校全学科が文部科学大臣より認定された。{資料１}
自動車整備専門学校として、関東一都三県で 5 校が認定され、うち 3 校が東京工科である。当学園はＨ１４専修学校設置基準の改定時点より自己点検評価の取り組みをしてきたこと、また企業連携の実習・演習ならびに教職員研修の実施および教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会等の評価をいただきながら企業と密接に連携を取り改善のサイクルを回している学校であることが評価されたと考えられる。委員の皆様にはタイトなスケジュールの中、多大なるご協力をいただき、今回の認定に漕ぎ着けた事に深く感謝し、今後も引き続きご指導をいただきたい。
上記(①②)に関わる質疑：特になし</td></tr>
</table>

	審議事項 ①Ｈ２５年度教育課程編成員会のまとめ(小林) ・会則の確認{資料３} ・前回議事録の確認{資料４} 以上①について審議がなされ、全委員の承認を得た。 ② 教育課程編成に関わるＨ２６年度の取り組みについて(山口) 25 年度の教育課程編成委員会における意見を踏まえた取り組み 2 項についての説明。 ・ハイブリッド車への対応 ハイブリッド車の整備に関する教育を充実するため、定電圧取扱いに関する教科書の変更を行った。従来の自動車に特化していない一般的な内容の教科書から、今般ＪＡＭＣＡ※より発刊された電気基礎、低圧電気取扱関連法規およびハイブリッド車整備要領を網羅した教科書に変更。自動車の安全整備にも十分配慮された内容であり、より分かり易い授業を目指すと共にこれをシラバス、授業シート等に落とし込むため３校でのレベル合わせを行う予定。教科書は今年度入学生より購入済み。※全国自動車大学校・整備専門学校協会の略称 ・実践的スキル習得 ・実技試験評価委員会(前回呼称：実践力評価方法委員会)設置 ・優先順として現車実習を伴う科目から改善検討をする ・実施スケジュールは{資料５}による ・実習風景ビデオ放映（１年生「ジャッキアップ」、４年生「１年点検」） ・実技試験課題の紹介 【審議内容】 ・ハイブリッド授業は修了証が何か出るのか(沼田) →低圧電気取扱特別教育の修了証が発行される。救命救急講習は校別(山口) →その割に履歴書ではあまり見かけない(沼田) ・運転免許中型取得に関する指導は？セーフティーローダーの運転あり(沼田) →ガイドラインはあるが、金銭的な部分で強制がしづらい(山口) ・実習ビデオを見て危険と思われる箇所が数点ある(甲斐、他) →別途ヒヤリングを行い、対応を検討する(佐藤) ・前回の主たる指摘項目について、説明があったが、他にもいくつかの指摘項目があり、それに対する対応の説明がない。例えば運転支援システムなど技術情報を、メーカーから得るためのシステムをどの様に構築しているかなど。学校と企業との分担・連携がとるためにも細部にわたって進捗管理すべき(佐々木) →今後、指摘いただいた項目は一覧にし、進捗を明示する(佐藤)

	以上②について審議がなされ、上記意見を盛り込む事で全委員の承認を得た。 ③ 教育課程編成に関わる意見交換(澁谷) 現行科目の改善検討資料として、グループで最もスタンダードなカリキュラムを持つ、中野校１自動車整備科のシラバス集をサンプルとして示し{資料６}説明、次回委員会に意見を持寄るようお願いをした。 以上③について審議がなされ、全委員の承認を得た。 ④ その他意見・要望(まとめ) 最後に各自より意見を募ったところ、前回同様「安全」「基礎」についてさらなる教育成果をお願いしたいとの意見とともに、多数の委員より「ヒューマンスキル」のワードが挙がった。環境・エネルギー問題に対応し、自動車は日々高度化が図られており、整備士に要求される整備技術力も比例して高まっている。そして技術が高度化されるほどそこに介在する「人の資質」が重要視される。なお、この「人」とは学生のみならず教育を行う教員も含まれる。 学校への企業ニーズも従来に比べて多岐にわたる様になった。これらの課題を限られた期間でどこまで達成してゆくかについて学校側だけでの対応には限界があり、これらは受け入れ企業を始めとした社会との連携が不可欠である。 その取り掛かりとして取り組むべき項目の整理と進捗の管理を行い、共有する事を第一歩とする事で、全委員の承認を得たところで、今回の会議を閉会とした。 **次回予定**（平成 26 年度第 2 回教育課程編成委員会） ・平成 26 年 10 月 8 日(水)開催予定 以上

会議風景